

3Rイニシアティブ国際シンポジウムについて

経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 課長 Setsuo Iuchi
井内 摂男

米国・シーアイランドで2004年6月に開催されたG8サミットにおいて、「リデュース・リユース・リサイクル（3R）イニシアティブ」が合意された。この3Rイニシアティブを正式に立ち上げるための「3Rイニシアティブ閣僚会合」が2005年4月28日から30日まで東京で開催され、閣僚会合のサイドイベントとして、「3Rイニシアティブ国際シンポジウム」が4月28日に東京で開催された。本稿では、「3Rイニシアティブ国際シンポジウム」の結果について紹介したい。

3Rイニシアティブ国際シンポジウムの概要

3Rイニシアティブ国際シンポジウムは、NPO法人循環型経済社会推進機構と国連大学が主催し、4月28日に都内（国連大学本部）で開催された。共催者として経済産業省、協力機関として早稲田大学、NPO法人エコデザイン推進機構、国土交通省、環境省が参加し、内外の産官学3R関係者（約300名）が集まってシンポジウムが行われた。午前には外国政府関係者を招いて基調講演を行ったほか、午後には、①各国内における循環型社会と国際的な資源循環システムの構築、②3Rシステムビジネス化に向けた挑戦、③エコデザイン、④国際静脈物流の構築、といった内容について議論を行った。

基調講演の概要

午前中は、欧州委員会環境保護総局からティモ・マケラ持続可能開発・統合局長、米国商務省からジョセフ・ボゴシアン次官補代理、中国国家環境保護総局から張力軍副局長が出席し、基調講演を行った。このうち、マケラ氏の講演では、欧州において天然資源利用に関する新たな戦略を策定していることが紹介された。また、ボゴシアン氏の講演では、米国においてリマニュファクチャリング（再生産）に取り組む企業の紹介があった。張氏の講演では、循環型経済の実現に向け積極的に政策を打ち出してきている中国の取り組みについて紹介があった。

全体セッションの概要

午後の全体セッションでは、「各国内における循環型社会構築と国際的な資源循環システムの構築」というテーマで議論が行われた（コーディネー

ター：国連大学の安井至副学長）。アジア経済研究所の小島道一研究員からは、アジア各国における3Rの取り組みの実情について報告があったほか、富士ゼロックス㈱の藤原仁生産本部長からは、同社がタイを拠点にして取り組んでいる広域リサイクルについて紹介があった。また、タイ工業省のスモンマン副次官からは、タイにおける3R政策の紹介があり、バーゼル条約事務局の桑原幸子局長からも、国際機関（バーゼル条約事務局）における取り組みの紹介があった。

平行セッションの概要

午後後半は平行セッションとして、「3Rシステムビジネス化に向けた挑戦」（コーディネーター：大和田秀二早稲田大教授）、「エコデザイン」（コーディネーター：須賀唯知東京大教授、古川勇二東京農工大教授）、「国際静脈物流の構築」（コーディネーター：細田衛士慶応大教授）の3つのテーマで議論が行われた。このうち、「エコデザイン」のセッションでは、企業のみならず消費者も環境保護に責任を持っていくことの重要性について、また、「国際静脈物流の構築」のセッションでは、循環資源の移動に係る汚染性と資源性の両立について、それぞれ議論が行われた。

3Rイニシアティブ閣僚会合への報告

3Rイニシアティブ国際シンポジウムの成果については、翌日の3Rイニシアティブ閣僚会合において、永田勝也早稲田大教授（産業構造審議会廃棄物・リサイクル小委員会小委員長、NPO法人循環型経済社会推進機構顧問）から報告された。シンポジウムの報告については、閣僚による議論の中で相当程度反映されていたものと思われる。

おわりに

3Rイニシアティブ国際シンポジウムは、3Rに関係する内外の産官学関係者を一同に集め、交流の機会を与えることを一つの目的としていたところであり、今回成功裏にシンポジウムが終わり、関係者間のネットワークが構築されたことについては、今後、世界に3R活動を広げていくという3Rイニシアティブの試みを推進する大きな力となっていくことが期待される。